

# 町民の声に耳を傾け 町政に反映を

置戸町議会議長 佐藤 純一



ご家族の皆さまと共に輝かしい新年をお迎えになられたことと思います。

昨年は町長の改選期にあたり、井上町長が無競争で四選を果たしました。また、同時に地方自治法に則り、一昨年の統一地方選挙で1人の欠員が生じた町議会議員選挙の再選挙が実施されましたが、こちらは無競争で当選が決定し、定員の10人を満たした状態で現在議会の運営がされています。一方、国政はと言いますと、まず、第一に取り組まなければならない東日本大震災の復旧、復興とそれに端を発した将来の電力エネルギーを何に求めるのかの議論が定まらない中、消費税の増税の決定を見、また近隣国との間に特に領土を巡る外交問題が発生し、更に議論が分かれるTPP問題など大きな政治課題が表面化してきました。そのような様々な課題を争点に、政党乱立の未総選挙が行われましたが、結果として、政治不信を表すかのような投票率の中政権交代となりました。

そのような昨年でしたが、一昨年に東京の目黒区美術館で開催されたオケクラフトの生みの親である秋岡芳夫さんの巡回展が8月に中央公民館を会場に、また花の商店街として内外とも評価の高い「大通り商店街協同組合」の創立20周年を祝う記念祝賀会が、11月に盛大に行われたことなどが、町の出来事として思い出されます。

そして年も変わり、政治の枠組みや方向性が定まった後、それを受け第5次総合計画を基本に町行政の考え方が予算等に反映されていくことになると思いますので、議会としましても広い見識を持って議論を進めてまいりたいと思います。

今年の主な事業としてはパースとして町民の皆さまに示された旧銀河線跡地の具体的な活用方法として町営住宅の建設関連、20億円に近い総予算で開始される簡易水道一元化に伴う工事関連、庁舎、スポーツセンターも対象建築物となっていますが、中学校から始まる改築を含んだ耐震化工事などの予算が計上されるものと思います。また、周年事業としましては、前述の「秋岡芳夫展」をプレ事業としましたオケクラフト誕生からの30周年を祝う本事業の年でもあります。

このように新年度に向けた諸事業についての議論と同時に、議会としましては旧銀河線跡地活用や、近年改築が予定されている緑清園の件など、様々な課題や将来展望についても議会活性化の継続事業であります議会報告会の開催などを通し広く町民の皆さまの声に耳を傾け、町政に反映させていきたいとの例年と変わらない気持ちであります。

結びとなりますが、本年も町民の皆さまにとってより良い年になりますことを願い、年頭のご挨拶といたします。